

關兵曹に昇進して大正七年三月除隊された人、の間同氏は選抜されて横須賀海軍機關學校に學ぶこと二回、電氣術科の普通科及び高等科を卒業して電氣機關に關する素養を積み又其の海上勤務中明治四十二年には軍艦筑波に乗組員として歐米各國を巡航し後再び生駒に乗組んでアルゼンチン獨立百年祭に參列し歐洲諸國を巡航する等歐米諸國の實況を見學して新智識を涵養し後日獨開戦さる、や丹後乗組員となりて青島の攻撃に參加し青島の陥落に至る

西村 敬一

まで軍務に服して勤七等に叙せ

らるゝに至つた。大正七年大阪に出て、大阪染工合資會社に入社し主として機關部、電氣部等を擔任し其の傍ら工場的人事に關する事務を兼務することゝなつたが工場の擴張に伴ひて大正十一年人事部に専任となり爾來引續き職務に精勵を續けて居る【家庭】夫人長幸(二八)さん、長男常弘(九)君外二男あり、又老母かつ(六四)氏は現に郷里に健在する。

西村 信三氏

【現住所】 大阪市東淀川区十三南之町六〇七
【出身地】 海草郡椒村大字椒濱
【出生】 明治十三年二月生

氏は明治三十一年和歌山縣師範學校を卒業して箕島高等小學校に教鞭を執る事二年、三十三年椒尋常高等小學校に轉じて校長に昇進し以來教職に従事する事十有五年、其の間郷里の青年兒童の訓育に不斷の努力を盡して其の徳望を稱揚せられたが大正三年職を退いて居村に閑居する事となり後、大正九年大阪に志して市居染工所に入社し爾來引續き同所の人事係長として人事に關する事務を管掌せられてゐる。氏は温厚にして誠直、多年教育界に培はれたる人格を以て社内の信望を集め居る。

西村 修三

【家庭】には夫人てる(三九)氏長女加壽代(二二)さん二女かをる(一七)さん長男死亡次男信彦(一三)君三男俊信(一一)君あり、

加壽代さんは梅花高等女學校の出身、かをるさんは現に正和高等女學校に通つて居る。
趣味——として氏は特に旅行を好み家にありては盆栽、園藝を樂みとする。

西 輝海氏

【現住所】 神戸市兵庫中庄一丁目
【出身地】 西牟婁郡串本町
【出生】 明治十六年六月生

氏の父は西惠迪氏と稱し西牟婁郡串本町に於て醫を業とせる人、氏は其て二男として生れ小學校を卒へると將來軍人たらんと志して東京に遊學し、成城中學校に學んだが修學中健康を害するに及んで其の體質軍人に適せない事を悟り心機一轉自ら父の業に従ふべく決心し中學卒業するや京都に來つて府立醫學専門學校に入り明治四十年卒業するに至つた。

氏は其の後直ちに内務省防疫官を拜命して兵庫縣警察部衛生課に勤務することゝなり就職後間もなく腸チブスに感染して自ら傳染病の危険なるを體驗し、以來防疫事務の緊切なるを痛感して一層職務に奮闘するに至つたが大正二年職を辭して神戸市

西 蓮海

下山手通三丁目に居を構へて自宅診療を開始した後ち間もなく兵庫今在家に移り前後十有餘年専心診療に従事して患者の信頼を受くること日に厚く昨年又現所に移つて以來更らに業務に精勵して居る氏の専門は内科及皮膚科であるが細菌の研究は其の得意とするところ、斯界に於ても稀に見る手腕家である。

【家庭】夫人薫(三五)氏との間に一男二女あり長男龍太(一三)君は縣立第一中學校に在學中

趣味——氏は性極めて快活低酌微黨を帶ぶれば大に話し又大に唄ふ。

隅田 豊吉氏

【現住所】 奈良縣宇智郡牧野村
【出身地】 那賀郡池田村豊田
【出生】 明治八年六月十五日生

氏は那賀郡池田村の出身會ては和歌山中學校に學び卒業するや自由派に屬して侃諤の論を吐いて政治に嚆を染め、時には村

會議員となり或は村長に推されて村政に盡瘁し或は又郡會議員となりて郡政に參與する所あつたが後縣會議員に推されて當選すること二回恒に正義公論に立脚して縣政に盡瘁し七十萬縣民の福利を圖り縣會議員中に毅然として光彩を放つたのは今尙ほ縣民の記憶に新なる所である。大正六年寺内内閣の議會を解散するや總選舉に際して衆望を負ふて代議士に當選し、日比谷政權に馳驅すること幾年大正十三年清浦内閣に依つて議會の解散を見るに至つて再び代議士の榮冠を得、其の任期中關稅改正案に就て奮闘して生糸業界の爲めに盡瘁され政治家としては稀れに見る廉潔の士である。

氏は又製糸業者として地方産業の爲めに活動すること多年大正八年には組織を變更して五條製糸株式會社を創立し、自ら社長となつて其の經營に當つて居るが曩に政府保護の下に帝國蠶糸株式會社の創立委員となり會社設立後は取締役に選任せられ其の經營の樞機に參劄して居る外最近に至るまで蠶糸同業組合中央會蠶糸格附調査委員を囑されて、蠶業界の爲め盡瘁されたと亦尠くはない、現に氏の主宰する五條製糸株式會社は資本金五十萬圓(内拂込高三十萬圓)を以て、生糸年産約七萬斤其

の價格實に一百萬圓を示すの盛況を呈し紀北、紀の川筋に於ける多數の製糸工場屈指の工場と稱されて居る。
 【家庭】氏の令閨ヒデ氏は曩に病没し長女シズ氏(三一)は現和歌山市立第一高等女學校長須藤丑彦氏の次男武彦君(三三)を迎へ婚養子として既に三人の愛孫がある、武彦氏は東京帝大工學部出身の秀才である。

井原國雄氏

【現住所】 大阪市西淀川區大和田町一六五〇
 【事務所】 同市西區靱南通一(信濃橋ビル)
 【出身地】 有田郡八幡村
 【出生】 明治三十二年四月生

氏は有田郡八幡村の生れ、小學校卒業後縣立和歌山工業學校に入り建築科を卒業して青雲の志を懷いて大阪に出て原田建築事務所勤務して技を磨くこと前後六年、大正十二年の秋原田氏が東京に移住すると共に獨立して現所に事務所を構へて建築設計業を開始するに至つた。爾來熱心業務に努め其の傍ら近代建築術の研究を怠らず時代の推移に常に一步を進めつゝ、あつたが、昨年十二月歐米を巡遊して米英佛獨等を初めとして三十餘

國を歴訪し歐米先進國に於ける建築術の粹を見學して新智識を養ひ本年三月歸朝以來之れを實地に應用して得意の技倆を發揮して居る。氏の如きは新進の技術家として其の前途を期待される。

【家庭】夫人美智子(二八)さんとの間に長女千恵子(四)さん長男史郎(二)君あり、又、父母姉妹弟等何れも氏と共に居住して一家極めて賑かである。

石田庄吉氏

【現住所】 大阪市東區廣小路町一六
 【店舗】 同市南區末吉橋通二丁目
 【出身地】 西牟婁郡田邊町榮町
 【出生】 明治二十九年二月生

氏は大正二年の縣立田邊中學の出身者中學卒業後神戸高等商業學校に學び高商を卒業したのは大正六年の事である、氏の家は代々砂糖商を以て營業とし氏が神戸高商卒業當時は嚴父庄七氏は大阪に於て盛大に營業して居つたので少壯氣鋭の氏は父の膝下を離れて新天地を開拓すべく遠大の希望を懷いて居つた時たま／＼父君は商略の手達が因をなして遂に營業に蹉跌を來た

すに至つたので止むなく斷念して其の整理に専念し只管家運の挽回に努力する事となり後間もなく嚴父庄七氏の逝去に遭ふに及んで茲に家業を相續し、爾來刻苦精勵して今日に至つた氏は現に臺灣精糖會社の關西特約店となり、新潟山口愛媛の諸縣を初めとして關西各地方に亘つて盛んに取引を行つて居る。大正七年氏が家業を繼承するに際して營業方針を改めて組織を變更し平野屋合資會社として今日に至つたものである。
 【家庭】夫人とみ枝(二五)さんは紀南の事業家小竹岩楠氏の息女田邊高女出身の才媛である夫人との間に長男庄一(三)君あり頗る圓滿、氏は趣味として中學時代から野外運動を好み、今尙休日には山野を跋涉することを楽しんで居る。

堂西司馬次氏

【現住所】 大阪市天王寺區寺田町一四
 【出身地】 那賀郡上岩出村茨木
 【出生】 明治二十八年八月生

氏は大正三年縣立粉河中學校の出身、卒業後支那に渡り上海東亞同文書院に學び大正六年卒業の後大阪伊藤忠商事株式會社

に入り綿糸綿布部に勤務して主として輸出入に關する事務を擔當することゝなつた。其の後同店の支那漢口支店詰として派遣せられ其の在支中、中部支那各地を巡廻して支那麻の買付に當り大正九年伊藤忠の經營に係る、濟南中華蛋廠に轉じて後、更らに伊藤忠經營の朝鮮共榮社に轉勤するに至つたが大正二年辭して内地に引上げ大阪日本糖業調査所に參加し翌年九月東京に本部を移されて後氏は専ら大阪事務所を主宰することゝなつた

【家庭】夫人此枝(二三)さんとの間に長女美生子(四)さん二女眞喜子(二)の二人あり。

中曾榮次氏

【現住所】 大阪市港區千島町四十七番地
 【出身地】 東牟婁郡色川村字田垣内
 【出生】 明治九年八月生

氏は東牟婁郡色川村字田垣内の生れ、家は農を業としてゐたが幼少より木材業に従事し、明治四十年東牟婁郡新宮町に出でて木材商を営み、次第に發展して大正五年大阪西區幸町に支店を開設したが大正十三年一月店舗を東京に移すに至つた、其の

後大正十四年再び大阪に引き返し、爾來現所に於て木材業を營むで居る。

【家】は夫人との間に二男二女あり長男宏藏君は慶應大學理財科卒業の秀才である。

宮井啓三氏

【現住所】 神戸市千島町二丁目十五
 【出身地】 有田郡湯淺町湯淺
 【出生】 明治二十三年二月生

氏は有田郡湯淺町の出身明治四十四年神戸に赴き當時我國に於ける有数の貿易商合名會社湯淺竹之助商店に入り勤続すると十有五年大正十五年榮町三丁目に獨立し目下主として外米の輸入を取扱つてゐる。

氏は湯淺商店在勤中、太正九年の財界動亂に際し同店も亦其の打撃を受けて遂に破綻を暴露し同商店に在つた中堅店員は何れも店を去るに至つた後も氏は二三の人と共に

最後迄踏み止まつて、店務の整理と回復に努力し、兎も角も再生の途を打開するに至つたことは特記すべきことであらう。

【家庭】は夫人菊枝(三三)さん長女君子(一〇)さん二女兼子(七)さん長男哲(五)君二男敏(三)君の外に老母ぬい(七六)氏がある。趣味は乗馬。

山中惣次郎氏

【現住所】 大阪市此花區上福島北一丁目
 【出身地】 有田郡五村大字中原
 【出生】 明治十八年四月生

氏は有田郡五村大字中原の出身、郷里の小學校を出て和歌山中學校を明治三十七年に卒業し後岡山醫學專問學校に入り、四十二年卒業す。卒業後一年志願兵として歩兵第八聯隊に入營し退營後、高安病院に在勤すること一ヶ年臨床上の習熟を積み大正元年、現所に福島醫院を開業して爾來専ら診療に努めて居る氏は多忙なる醫業の傍ら地方公共事業並びに醫事衛生の發達に努力せられ現に大阪市醫師會副議長並びに大阪府方面委員に囑せられ、曩に區會議員に當選する事二回現在大阪市公同委員

乾菊太郎氏

【現住所】 京都市大宮通り綾小路南へ入ル
 【出身地】 海草郡宮前村字小雜賀
 【出生】 明治十一年十一月生

氏は海草郡宮前村大字小雜賀の出身、小學校卒業後中村染工所に染色を習得し、十八歳の時(明治三十二年)和歌山市教仙橋筋で同志三名と共に捺染工業を創始した。當時綿ネル捺染の元祖とも云ふべきであつたが、凹型捺染が創始されて以來、それに壓倒されて工場を閉鎖し、明治三十九年米國桑港に渡航し、在米すること五年有半其の間同地にて雜貨商を営み、傍ら商況を視察して四十五年歸國後京都市に出で、店を構へ京染業を開

始し傍ら生地の賣買を始め以來今日に至るまで業務は次第に隆昌し、其の得意先は全國に及んでゐる。氏の營業は京染ではあるが染めるといふこと即ち藝術なりとの信念の下に、商人根性を離れて、藝術の向上に努め多數の京染業者中にありて信用の厚きを致したのも氏は米國に於ける信用第一の商法を實地に見て來た結果であらうと思はれる。

【家庭】には夫人熊野(三八)さん、長女豐子(一六)さん長男光世(六)君あり豐子さんは現に明德女學校に通つてゐる。

成戸政信氏

【現住所】 大阪市北區堂島濱通一丁目

【出身地】 有田郡箕島町字北港

【出生】 明治二十六年十月生

氏は有田郡箕島町字北港の生れ、箕島實業學校を卒へて後明治四十二年十七歳にして大阪に出て、江戸堀の米問屋藤本合資會社に奉公し、終始一貫主家のために精勤する事十有五年一昨年三月獨立して現住地に玄米商を開業した、氏は現に正米取引

其の政信

所の開設以來堂島米界の巨頭岡米商店經營する正米部の業務を代行し前途春秋に富む手腕家である。

【家庭】は夫人とみ(三〇)さん長男正俊(一四)さんの外三人の男兒あり正俊君は箕島商業學校に通つてゐる。趣味は洋書と酒、酒は斗酒尙ほ辭せざる豪の者か？

山本宇太郎氏

【現住所】 大阪市住吉區天王寺町一九〇

【出身地】 那賀郡調月村

【出生】 明治六年十二月生

氏は明治六年十二月八日那賀郡調月村宮ノ尾山本専右衛門氏の長男に生る。氏の家は農を以て業としたが、商才に富んだ氏は成長するに及んで、米穀及び繭等の仲立賣買を營むこと十餘年、明治三十四年二十八歳の時始めて大阪に上つて日本橋筋四丁目に生魚商を開業するに至つた大正三年、今宮町に移つて紀の國屋と稱して簡易旅宿を營む事となつたが逐次繁昌して次第

に産を殖し昨年(昭和二年)現所に旅館を新築して此所に移り關西屋と號して盛大に開業するに至つた。

氏の旅館は極めて簡易なる文化的旅館であつて各室毎に戸締りの装置を施して盜難の用心に備へ、食料と室料を區別して又食堂を設備して客室内にて食事を供せないこと、した外茶代心付等は絶對廢止を實行して居る。氏は從來旅館の客室は多くは襖一枚で極めて不要心であるのを見て、之れ等の缺點を除去する事に着眼して自ら卒先して實行を試みたのであると言つて居る。

氏は又大阪府方面委員を始め住吉區會議員等に擧げられて常に公共に盡瘁して來られたが現に方面委員、公同委員等の職に就いて居る。

【家庭】には夫人節子氏(三八)長男雅彦君(一一)あり。

吉本公男氏

【現住所】 大阪市東淀川區十三木川町三二九

【出身地】 和歌山市新通五丁目

【出生】 明治三十年五月生

氏は和歌山市新中通五丁目に生る、大正四年和歌山中學校を

太田茂夫氏

【營業所】 大阪市東區內安堂寺町二丁目

【現住所】 和歌山市吹上中橋筋

【出生】 明治十七年六月生

氏は和歌山市吹上中橋筋に生れ明治三十五年和歌山中學校を

吉本公男

卒へて千葉醫學專門學校に學び大正十年卒業、學校卒業後現役軍醫を志願して近衛二聯隊、大阪衛戍病院、サガレン洲派遣軍病院等に勤務して二等軍醫に昇進し十四年には津五十一聯隊、豊橋工兵第三大隊等に轉任し大正十五年四月依願豫備役に編入されて退營した。同年六月現在の所に自宅開業し晝間は赤十字社大阪病院の耳鼻科に勤務してゐるが昭和二年十二月同病院を辭し以來自家の診療に従事し耳鼻咽喉科及内外部を専門としてゐる。

【家庭】夫人すみ枝(二二)子は那賀郡名手町金岡氏の息女、既に長男俊(三)君長女稔子(一)さんを儲けてある。

卒業し、次で大阪高等工業學校に入りて、同三十八年卒業した卒業と同時に、古川礦業株式會社尾礦山に技師として入社し勤続六年にして明治四十五年合資會社高田商會に勤務することになり爾來礦山用機械の販賣係りを擔任した、高田商會は世人の識る如く本邦輸入機械商の巨頭として斯界に權威を有せし店舗であつただけ

高田義文

同社に多年勤務した氏は機械の販賣については一見識を備へ高田商會の没落後氏は躍然として獨立自營の途を立て、昭和二年十一月現在の所に店舗（瑞光社）を開き瑞光式（特許）掘摺機の發賣を始めるに至つたが近時農業の機械化が漸く盛んとなつた折柄前途頗る有望視されてゐる。

氏は高田商會在動中大正九年歐米各國に特種機械類の視察研究をなし將來を期待して歸朝したが同商會の破綻のため、折角の洋行土産も持ち腐りとなつたのは氏の爲めに遺憾である。
【家庭】は夫人久枝（三九）さんとの仲に二女あり、何れも和歌山市に在つて高等女學校に在學中

趣味としては園藝、養魚等

岡本宗明氏

【現住所】 尼ヶ崎市外小田村金樂寺
【店舗】 大阪市東區本町二丁目（共濟生命館内）
【出身地】 有田郡八幡村字久野原
【出生】 明治二十三年三月生

氏は有田郡八幡村大字久野原の出身、明治四十二年耐久中學校を卒業して後海草郡日方町の南海水力電氣株式會社に入社し技術方面に従事したが二十四歳の時（大正三年）初めて大阪に出で阪神電氣鐵道會社に勤務すること四年、其の後第一電機製作所に後又松風工業株式會社大阪支店等に勤務して販賣方面に従事し大正十三年獨立して電氣工事請負を開始爾來現在に至るまで奮闘を續けて居る。

吉本宗明

【家庭】は夫人ふみ子（三八）さん長男宗夫（一九）君——尼ヶ崎中學卒業、二男宗清（一五）君——尼ヶ崎中學在學、長女千枝子

（一一）さん二女多賀子（六）さん三女田鶴子（二）さんの子福者である。

森島龜二氏

【現住所】 大阪府下濱寺町諏訪の森
【出身地】 西牟婁郡串本町
【出生】 明治三十年十月生

氏は西牟婁郡串本町の生れ、大正四年縣立田邊中學校を卒業し京都同志社大學に入り、大正九年同大學經濟部を卒業した。卒業後大阪に居住し、株式會社野村商店に勤務してゐたが、大正十五年十一月同店専務橋本喜作氏が加島信託株式會社の創立に携はるに及び、氏も亦橋本氏に隨つて加島信託に入社し専ら証券部を擔任してゐる。昭和二年四月に惹起せる金融界の大動亂に際しては加島銀行も遂に内部の整理を斷行した程、廣岡系事業に對する信用が失墜し信託會社の如きも其の餘波を受けて、信託預金の如きは更に増加せず營業成績の如

森島龜二

何に付ては當時一般から憂慮された程であつたが証券部の活動に全力を傾注して見事豫期以上の好成績を擧ぐるまでには多年野村商店に在つて証券部に經驗深き氏等の努力も亦決して少くはない。

【家庭】は夫人龍尾（三三）さんとの間に一女一男あり。

道正胎藏氏

【現住所】 大阪市北區天神橋筋二丁目
【出身地】 有田郡藤並村大字岡田
【出生】 明治十八年十二月生

氏は有田郡藤並村大字岡田西福寺の住職戒淨師の二男に生る不幸にして十二歳の時兩親に死別したため十五歳の時大阪に出で、南海鐵道天下茶屋驛の驛員となつて、つづさに生活苦の實相を味ふた、其後關西鐵道港町驛に車掌として勤務したが間もなく兵役に服することとなり、伏見工兵隊に入營し其の退營後大阪南區役所に書記となり或は府下豊崎町役場に勤務し其の傍ら文房具店を開業して内職とし、次第に隆昌に赴いたので役場員を辭して専心文房具店の經營に従事し、大正十五年七月現住

地に移轉し盛大に營業をして居る。氏は僧侶の子に生れたが其の職を好まず幼時父母に別れ、以來確固たる方針も立てずして都會に飛び出して、以來今日の地位を造るまでには随分人しれぬ苦勞を重ねた稀らしい奮闘家である。

道正胎藏

【家庭】夫人豐子(三四)さんは和歌山市の産其の仲に長男保(一五)君——大阪商業在學——長女房子(一〇)さん二女年子(一一)さんがある。家業に精勵することを趣味とす。

山田信雄氏

【現住所】 大阪市港區泉尾中通二丁目三

【出身地】 東牟婁郡明神村字川口

【出生】 明治二十六年一月生

氏は東牟婁郡明神村大字川口の生れ、新宮中學を明治四十四年に卒業し、京都府立醫學專門學校に入り大正六年卒業。學校を出ると直ちに別府烏瀉病院に勤務して外科及び耳鼻科を擔任し後京都に來つて鹽小路病院に入り内外科を擔任するこ

と約二年、其の後夫人の郷里西牟婁郡田並町に移住し自宅開業するに至つたが深く期する所あり、大正十四年大阪に志し現住地に居を構へて開業し爾來診療に専念して居る。

兒玉正義氏

【現住所】 大阪府北區小松原通六九

【出身地】 那賀郡粉河町中山

【出生】 明治三十三年九月十日生

那賀郡粉河町字中山の出身、大正八年四月廣島高等師範學校文科第三部に入學して、十二年卒業するや大阪府立天王寺中學校教諭を拜命したが、心氣一轉二ヶ年の服務年限を終ると十四年四月東北帝國大學、法文學部法律科に入學し其の在學中昭和二年十二月高等文官試驗司法官試驗に合格し翌三年三月同科を卒業法學士の稱號を受く。卒業の翌月、那賀郡粉河町大林増次郎氏の三女廣子(一一)さ

小關三平氏

【現住所】 兵庫縣武庫郡本庄村深江

【出身地】 西牟婁郡田邊町

【出生】 明治十一年七月廿一日生

んと結婚し、同時に大阪地方裁判所屬として辯護士の登録を受け同郷の先輩田村(堅三)法律事務所にて辯護士事務に専念して居る、氏は年齒未だ三十に満たず前途洋々たる青年辯護士である。

玉置佐一郎氏

【現住所】 西ノ宮市西濱新家二二三〇三

【出身地】 日高郡比井崎村字比井

【出生】 明治二十三年八月生

日高郡比井崎村字比井の出身明治四十三年西ノ宮市、内外綿株式會社西ノ宮紡績工場に入社し以來今日に至る迄終始一貫同工場に勤務し現に人事係主任として千餘の従業員の指導訓育に努力して居る。

【家庭】夫人たね(二六)氏は日高郡御坊町の出身其の間に長男健一(一一)君あり又郷里には兩親健在する。趣味は南畫と、戸外運動であると。

佛、獨、米の諸國を巡遊し、又九年十一月日獨戰役の勳功に依つて雙光旭日章を授けられた。

大正十一年再び商船學校教授に任せられて航海科に教頭として教鞭を執り翌十二年校長不在中同校幹事として校長事務を執掌し同年七月勅任官待遇となり同十月神戸高等商船學校長に昇任せられて爾來高等海員の養成に専念されて居る氏は現に高等官二等正五位勳三等に叙せられ、又海軍豫備少佐に任せられてゐる。

氏は人格崇高の教育家として現在教育界に光彩を放つて居るが海員に對する精神教育は一に宗教の力に依るを以て唯一の方法であるとして屢々文部當局に建議を提するところあつた現に氏の主宰する神戸商船に於ては其の就任以來中川日史師を姫路から聘して法華經維摩勝鬘經等佛典の講義を求めて學生の教養に努力されて居る。

【家庭】には夫人まさ氏(四八)を始め長男勝雄君(二四)次男周(君)(一七)三男英一君(一五)五男眞一君(八)の諸子あり——趣味——として氏は弓道を好む。

中岡孫一郎氏

【現住所】 神戸市上筒井通六丁目
【出身地】 伊都郡隅田村
【出生】 明治十八年六月生

氏は伊都郡隅田村の生れ、幼時奈良縣五條町小學校に學び後又奈良縣立五條中學校に進み卒業後笈を東京に負ひ東京高等商業學校に入學したが一ツ橋卒業後住友銀行本店に就職し、明治四十四年辭して再び東京高商專攻部に學を積み、大正二年日本興業銀行本店に入り後總裁志立鐵次郎氏に恩顧を受け、總裁秘書に拔擢はられて重役の帷幕に參じて敏腕を揮ひ、大正七年日本橋支店長に昇進し大正十二年には同行に於ける各支店中最も樞要なる神戸支店に店長として榮轉し爾來熱心行務に奮闘して居る氏が大正七年土方久徵氏に總裁秘書在職中、寺内々閣の所謂西原借款の取扱ひに、關聯して繁激極まる其の事務を掌理し明晰なる頭腦を謳はるゝに至つたとさへ聞いて居る。今や其の銀行の關西探題として神戸支店長の要職を占めて縱横に快腕を發揮しつゝ、ある氏亦、其の將來金融業界に一大飛躍を試みらる

べきを期待して疑はぬ。

坂田正藏氏

【現店舗】 大阪市東區南久太郎町三丁目
【本宅】 和歌山市新内一九九
【出生】 明治十八年三月二日生

氏は和歌山市駿河町先代阪田彌兵衛氏の二男に生れ曾て和歌山中學校に學んだが十八歳の時和歌中を中退して家業に従事することとなつた。氏の家は元煙草商を營み傍ら綿ネル商を兼業とした爲め令兄現代彌兵衛氏は煙草商に従事し氏は同市板屋町に於て主として綿ネル業を擔當することとなつた後煙草專賣法の實施に依つて政府に買収さるゝに及んで大正四年綿糸問屋を開業し大正八年店舗を株式組織に改めるに及んで氏も亦其の取締役の一員となり令兄と相共力して業務の發展に

坂田正藏

努力したが嚴父彌兵衛氏の没後、同十四年大阪に店舗を構へて三品取引所取引員の免狀を受けて、單獨に定期綿糸の仲買店を

塩崎與吉氏

【現住所】 大阪市浪速區櫻川反物町
【出身地】 日高郡鹽屋村
【出生】 明治十四年十一月生

氏は幼にして父を失ひ母の手一つに育てられた、十八歳の時北海道通ひの汽船に火夫として乗組み辛酸五年にして二等機關士となり日露戰役に際會して御用船に乗り組み其の功に依つて勳六等に叙せられ瑞寶章を授けられた、後一等機關士となり明治四十二年には大阪阿波屋貝三氏の船舶監督として招かれたが

開業して今日に至つたのである。氏は其の間、大正五年には令兄と共に紀伊メリヤス株式會社を創立するや之れに參加して監査役となつた事もある。

【家庭】には夫人ふじ枝さん(三七)を始め、長女花子さん(一八)長男誠造君(一〇)二女夫紀子さん(七)あり、花子さんは修徳女學校卒業の才媛である。氏は昨年來同市新内に家宅を新築し竣成後此所に移轉して單身大阪の店舗に通つて居る。

後獨立して大正二年汽船駒形丸を購入して船主として自ら之れに乗船し北米シャトルに航行した時には國際問題までも引起した物語りがある。大正五年關西鑛鐵株式會社を創立して其の事務取締役となり又大正七八年歐州戰亂の餘惠を受けて海運界に好況を呈した時には東洋商船株式會社を創立し、數隻の新造船を所有して活躍を試み船成金と謳はれたが所謂戰後の反動時期に際會して脆くも失敗するに至つた。越へて大正十二年我海運界未曾有の不況に沈み船價亦暴落の極に達するや我國の大小船舶業者は何れも絶息の思ひに悩む時、氏は敢然として全資産を擧げて汽船を買ひ入れ現に二萬數千噸の船舶を所有して盛んに海運業に従事しつゝ、あるが其の卓見常人と軌を異にする所がある。

【家庭】には夫人美子氏(四一)を始めとして、長男吉雄君(二二)——市岡中學卒業して目下家業に従事——二男實君(一八)——北野中學校在學——長女靜子さん(一五)樟陰女學校在學——二女幸子さん(一一)三男幸雄君(三)等あり。氏は金光教を信すること厚く老母に孝養を盡して自ら樂しみとして居る。大正七年氏が船成金當時數萬圓を投じて購入した

る米國製モーターボートは其の快速力を以て知られて居るが阪神間僅に二十分間を以て達する現代稀れに見る優秀なものと稱して居る。

三尾邦三氏

【大阪住所】 大阪市東區伏見町三丁目
【東京住所】 東京市赤阪區青山高樹町六
【出身地】 和歌山市小松原通三丁目
【出生】 明治二十四年九月廿九日生

我が國美術骨董界の代表的商店として株式會社春海商店がある、苟くも美術を語り骨董を愛玩する程の者春海の名を知らざるなく、同時に三尾邦三氏の名を聞かぬ者はあるまい。氏は其の事務取締役として春海商店を双肩に荷つて立てる人物である。氏は明治二十四年九月和歌山市新堀北ノ丁三尾彦右衛門氏の三男として生れた。氏の家は酒造を業とし代々其の家長を大野屋彦右衛門と稱して來た、氏の幼少の頃家業振はずして其の業を廢したと聞く。氏は九歳の時臺灣に渡り令兄の許に身を寄せて臺南に留まること一年、兄の病死に遭ひて鵬志空しく内地に

引上げ大阪春海商店に入り先代春海藤次郎氏に仕へること、なつた、時に氏は年齒僅に十歳、氏は今我國美術界に活躍するに至つた第一歩はこゝに初めて踏み出したのである。

聰明にして敏捷なる氏は早くも其の商才を認められ先代藤次郎氏より殊の外愛せられた。而して明治四十五年先代の歿後二十歳にして同店を双肩に荷ふて經營に當ること、なつた。先代藤次郎氏は斯界に於ては古今を通じて稀に見る鑑識の大家、春海商店の名聲を斯界に博したのは素より同氏の力に外ならぬが之れを受け繼いで、同店をして克く今日の盛大を爲さしめ春海の三尾か、三尾の春海かと諺はるゝに至つたのは一に三尾氏の手腕と稱すべきである。

三尾邦三

大正八年組織を變更して株式會社として以來事務取締役として今日に至つてゐる。現に久原、三井、岩崎、根津、藤田等を始め我國屈指の富豪を得意先として其の取り扱ふ品の如きも一点十數萬圓を唱ふる珍寶名器の類のみである。氏が特に知遇を受けてゐる現遷相久原氏の如き、先代春海氏に従つて出入せし時

代よりの緣故である。昭和二年夏、久原氏が政府の經濟特使として露、獨、兩國に派遣さるゝや氏も亦其の隨員として渡歐し露西亞、獨逸、佛蘭西、英國等を経て北米を廻り同年十二月歸朝した、以て如何に其の信任の厚きかを知るに足らう。

氏は以前大正九年にも歐米諸國の美術界視察の爲め單獨漫遊したこともある。氏は又恒に公共事業に力を盡し昨年災害救助基金として金壹萬圓を和歌山縣へ、更らに又縣立海草中學校の運動場整備費に金三千五百圓、最近には歩兵第六十一聯隊の演武場建設の爲めに壹萬圓を寄附したるなどは其の主なるもの、本年十月其の功勞に依つて紺授褒章を授けられた。氏は曩に大正十一年に神戸の川崎氏と共に大阪毎日新聞社へ各々一臺の飛行機を寄贈したこともある、現に大阪毎日が大朝に對抗して飛行機を有するに至つたのは之れが素因をなしたものと聞いて居る。

【家庭】には夫人千世子さん(三三)長男隆造君(一五)——東商業學校に在學、二男勝之助君(六)あり。外に氏の兩親は和歌山の自宅に在住する。

趣味——は自動車と飛行機プロ階級には一寸手の届きにくい道

樂であるが氏は東京に數臺の自家用自動車を所有し、箱根等に遊ぶ時必ず自動車を疾驅する又大阪には飛行機を所有して春海號と名づけて居る。折にふれ郷里和歌山の上空に飛來することがある。氏は壯年にして既に今日の地位にあり、更らに政界に躍出せんとする日も亦近きにあると窺はれる。

竹中源助氏

【本店】和歌山市三木町中之町二三
【支店】大阪市東區北久太郎町二丁目
【出生】明治十年六月二十七日生

氏は明治十年和歌山市北新楠屋町に生る、幼名を川口兵四郎と稱し明治三十五年先代源助氏に迎えられて二女美喜枝氏の女婚として竹中家に入り明治四十五年岳父の歿後襲名して源助と名乗るに至つた。

竹中氏は和歌山に於ける舊家として綿糸商を営み土地第一位の綿糸問屋として現に盛大に營業して居る、先年大阪に陣を進め北久太郎町二丁目支店を開設して業務を擴張し、専ら發展

に努力するところあつたが大正七年株式組織に變更し、株式会社竹中商店の商號を以て自ら社長に任に就き其の經營に専念しつゝ、ある外幾多の事業に關係して重役に選任せられ今や華城綿業界に雄飛して錚々として名を知られて居る、氏は温厚篤實にして恒に公共の爲めに財を惜まず其の德行を稱せられ人格の崇高なるは現代稀れに見るところ郷土多數の紳士中毅然として異彩を放つて居る。

【家庭】には美喜枝夫人を初め長女美代子さん(二二)、二女延子さん(一九)三女美佐代さん(一八)二男源太郎君(一七)四男泰二君(一一)あり長女美代子さんは分家して養子を迎へて居る。

南楠太郎氏

【本宅】和歌山市七番丁一番地
【出身地】海草郡安原村吉原
【出生】文久元年九月七日生

氏は海草郡安原村に農家の次男として生れた、幼少の頃寺小屋に通ふ暇には村童と交つて牛を追ひ草を刈て成長した、十四歳の時和歌山市に出で、先々代竹中源助氏方に奉公して欣々と

して働き通すこと七ヶ年氏が今、事業界に雄飛する素地は斯くの如くして造られたものである。

年期を了へて後徴兵検査に合格して大阪鎮臺に入營し三年間の軍務に服し除隊するや舊主竹中氏から出資を得て龜川村小野田に水車場を設置し令兄と協力して棉實、菜種等を絞つて油の製造を開始したが幾何もなく之れを閉鎖して和歌山に出で明治二十二年竹中氏の共同を得て吹屋町に機械製油を開始した、和

南楠太郎

歌山に煉瓦積の煙突が屹立したのは之れを以て

嚆矢とする。後之れを精米工場に變更して令兄甚之助氏に經營を委するに至つたと聞く。

明治二十六年、日清戦争の機運が醸成し財界は極度の脅威を覺へし時小松原通り一帯の土地を坪當り壹圓といふ當時としては法外な高値で引受けて一躍四萬坪の大地主となり後年和歌山中學校の敷地などに犠牲的價格で縣市等に提供したが今尙二萬餘坪を所有して居るのは此所に説くまでもない事實である。

明治二十九年徳島に渡つて同地の米穀取引所を引受けて努力

經營其の内容を充實し更らに株式取引所を兼設して株價の奔騰するに至つた時其の持株を賣り退いて數萬の利益を懐にして意氣揚々として和歌山に引上げた、後日清戦後和歌山織布會社の經營を引受けるに至つたが之れが氏は現に和歌山に於ける紡績界に覇を握るに至つた第一歩である、之れ明治三十三年氏齡三十九歳の時である。

日露戦後氏は和歌山紡績會社の重役に就任して其の經營を引受け四十四年には兩社の合併を斷行して、現和歌山紡績株式會社を設立し取締役社長として全生命を打込んで其の經營にあたる事になつたのである。

氏が大阪に乗り出したのは大正五年、市岡土地株式會社を創立して財界の檜舞臺に活躍を試みたのを初めとして爾來各種の事業に關係して今や華城事業界に錚々として名聲を謳はれて居る現に氏の關係しつゝ、ある主なる事業としては

- 一、和歌山紡績株式會社 資本金五百二十萬圓 社長
- 一、市岡土地株式會社 全 上四百三十萬圓 社長
- 一、日華製紙株式會社 全 上一百萬圓 社長
- 一、木津川船渠株式會社 全 上一百萬圓 社長

- 一、和歌浦土地株式會社 全 上一百萬圓 社長
 - 一、大阪三品取引所 全 上五百萬圓 理事
 - 一、合同油脂グリセリン會社 全 上五百萬圓 監査役
 - 一、日本共立火災保險株式會社 全 五百萬圓 取締役
- 等である。氏は又一面山林の經營に力を致し舊主竹中氏と共同して現に日高川奥から、大和十津川に亘る紀和國境一帶の山林面積約二千町歩を所有して明治四十二年來年々壹萬數千圓の經費を投じて杉檜の植林を行ひ其數既に六百萬本に達して居る外有田川奥にも約一千町歩の山林を單獨にて經營して居る。氏は性剛放にして而かも仁俠滿身智と膽とを以て固めたる五尺の倭軀を提げて今や財界の檜舞臺に雄躍しつゝ、あるが舊主竹中氏に對しては恒に謝恩の念忘れることなく有益なる事業は先ず竹中氏に相談つて共同とするなど竹中家の爲めに盡して居る。
- 【家庭】には夫人ハルエ氏(五四)嗣子俊一氏(三五)三男幸夫君(三三)四男操君(三二)外四男二女及び自宅に三人の令孫がある
- 俊一氏は關西石材株式會社社長、日華製紙株式會社事務取締役として日々大阪に通つて兩社の經營に専念し青年實業家として前途を囑望されて居る幸夫君は分家して紀三井寺の別荘に住

し青年文士として學藝に専心し三男操君亦分家し東京に在住して現に父君の關係せる日本共立火災保險會社に勤務して居る

戸田實氏

【現住所】兵庫縣明石郡垂水村鹽屋
 【店舖】神戸市海岸通三丁目
 【出身地】日高郡藤田村

神戸海運界に一方の旗頭として采配を揮つてゐる戸田實氏は實業界に於ける紀州人の先輩として將又郷土を代表すべき一人である。氏は曾て和歌山中學を中退して神戸に走り神港海運界の先人佐藤勇太郎氏の經營する石炭商に店員となつたのは年齒僅に十八歳、世の多くの若人達が或は空想の夢路に迷ひ入り或は幽かに開かれた青春の瞳から好奇の世界を覗いて前後も識らず邪道に踏み込まんとする年頃であつた。

だが、家運再興の一念が赤々と胸に滿ち亘つた氏の澄み切つた瞳には榮へある己が將來の姿が樂しく映せられるのみであつた。而かも此の強く燃へ盛つた火には高潔其のもの、如き主佐

藤氏の油が注がれ、大きく見開かれた瞳には炯眼なる同氏の士魂と商才とが間斷なく觸れて氏、今日の基礎的訓練が完璧へと加速度を増して行つた。

「物の成るは成る時に成るに非ず」。の言を如實に味ひ得て餘りあるではないか。即ち主従の胸底に張られた二つの琴線がコダマするが如くに相應じ共に銀鈴の音をかきまてたものであつた具体的に云へば氏の動き振り執務ぶりは佐藤氏の數多き訓言そのものであり、意志そのものであつたのである。

斯くて十年を経ず氏は一躍支配人となつたのは、何等の拔擢でも優遇でもない當然の歸結と云はなければならぬ。其の後門司に佐藤永田商店なる石炭輸出商を聞くに當り佐藤側の代表者として派遣せられた主の厚き信任に報ゆるに八萬圓の損失を以てした時に於てすらも主、佐藤氏が一言半句も之れに言及しなかつたに見ても如何に兩者の心が強く堅く結ばれてゐたかを察するに足るのである、後間もなく日露戦後の機運に乗じて氏一個の手腕を以てよく二十萬圓の利益を収め、明治四十年に到つて店主の地位に置かれ主、佐藤氏と同格の位置を占めたのである。明治四十一年六月氏齡三十四歳にして門司を去り獨立して

神戸に店舗を構へ茲に愈々活躍の陣容を整へると共に二三の人々と共に東和汽船株式會社を設立して飛躍の第一歩を踏み出した時恰も歐洲大戦亂が勃發した千載一遇の好機に處して氏は日頃交友ある松方幸次郎氏等の意見を參酌して其の方策を誤らず船成金の榮冠を獲て關西財界に雄飛するに至つた。氏は現に株式會社戸田商店社長、日東海上火災保險株式會社社長、大連戸田汽船株式會社事務取締役たる外數多の事業に關係して居るが一面各種の社會事業に數十萬金を投げ出し又戸田獎學金を作つて社會に有爲の青年を送り出す事に努める等公共の爲めに盡瘁する所尠くない。

南方熊次郎氏

【現住所】大阪市西區南堀江通五丁目
 【出身地】和歌山市廣瀬中ノ町
 【出生】明治十三年十二月廿五日生

氏は和歌山市の産、廣瀬小學校を卒業して十七歳の時大阪に出で西區松島町二丁目綿商水口商店に奉公し勤続三年、主家の破綻に餘義なく辭して鳴尾合名會社に勤むること、なつたが明

治三十七年獨立して綿花仲立業に従事した時、恰も日露戦役に際會して綿糸事業界の好潮に乘じ、其の成績見るものあり四十年には南堀江通りに店舗を構へて綿花商を開業するに至つた爾來今日に至るまで業務發展に努力し其の間大正元年には業務を擴張して南方洋行と商號を改め支那其の他海外各地より直接綿花を輸入して、紡績會社等に賣約し漸次盛況を來し現に紡績綿商大阪同盟會副會長に推されて活躍を續けて居る氏は一面社會的活動に力を致し現に大阪市會議員として市政の爲めに盡瘁しつゝ、ある外全國都市衛生組合聯合會幹事大阪市衛生組合聯合會副會長、大阪市日吉教化委員會長、大阪市西區日吉軍人後援會事、大阪市西區日吉衛生組合組長、大阪市西區日吉軍人後援會長、在郷軍人會日吉分會顧問等、公共團體に關與して盡瘁するところ尠くはないが聖上御即位の大典に際し紀念事業として、氏の主宰する日吉教化會に於て貧民救濟機關の設置を計劃して自ら其の陣頭に立つて現に其の實出を期して居る。

【家庭】夫人のぶ子さん(四七)長男英雄君(二三)長女靜子さん(二二)二女悦子さん(一九)二男重雄君(一六)あり、英雄君は大正十四年一年志願兵として三島重砲兵隊に入營し退營後家業に

従事、又靜子、悦子の両女は精華女學校を卒業し二男重雄君は今、府立天王寺中學校に通つて居る。

土屋楠熊氏

【現住所】兵庫縣武庫郡御影町郡家
【出身地】和歌山市小松原通り一丁目
【出生】明治四年二月生

「我國外國貿易の現状を見よ！豆粒大の小石一個に幾萬圓の大金を抛つて輸入し之れに對するに船一隻僅々百圓？にも足らざる品物を輸出して得々たるに至つては我國の前途亦如何にせんや……だ」と之れは或る憂國論者の説である。豆粒大の小石とは寶石ダイヤたるは謂ふまでもないが船一隻百圓の品物は之れは寶石を指すものに非ざるか。然り此の言たるや我が國の現状を喝破してあます所がない。然し乍ら我國に於ける燐寸事業は最近其の産額八百萬圓の巨額を示し輸出貿易品中重要な地位を占め、悔るべからざる勢力を有するもの、之れと共に多年我燐寸工業界の發展に努力されたる土屋熊楠氏の没すべからざる功績も亦忘るゝ事の出来ないものがある。氏は明治四年和歌山市

に於て生れ和歌山中學校卒業後東都に上り陸軍經理學校に學んで明治二十七年卒業し三等主計に任ぜられて、歩兵第四十七職隊經理部に屬し三十年職を退いて神戸に出て現神戸商工會議所會頭として神港實業界の巨頭瀧川儀作氏等と相語つて燐寸事業に身を投じ爾來幾十年今日に至るまで我國燐寸工業の爲め盡瘁して其の發展に努力し現に瀧川儀作氏社長の下に東洋燐寸株式會社專務取締役として今尙斯業界に奮闘を續けてゐる。氏は其の間明治三十七年日露戦役に際しては歩兵第三十七聯隊附として

土屋楠熊

第四師團に屬し
て出征し翌三十
八年二等主計に

昇進し三十九年凱旋し勳功に依つて従七位勳五等功五級に叙せられた。氏は今や東洋燐寸株式會社の專務たるの外數多の事業會社に關係して其の重役の椅子を占め神港事業界に錚々として謳はれて居る。

【家庭】には幸子夫人(四五)長男俊彦君(二二)長女小夜子さん(一九)あり俊彦君は山口高等學校に又小夜子さんは甲南高等女學校に何れも在學中

氏は競馬に興味深く明治四十一年始めて鳴尾競馬場の設置されるに當つて其の創立委員として競馬場の土地選定其の他に奔走されたのは既に人の知る所、鳴尾競馬場創立の功勞者として愛馬者間に敬されて居る。

乾 繁 壽 氏

【現住所】神戸市須磨上澤一二
【出身地】和歌山縣海草郡川永村
【出生】明治九年六月一日生

氏は海草郡川永村の生れ、和歌山中學校を卒業後、笈を負ふて東京に遊學し慶應大學理財科に學び明治三十一年を以て卒業す。其の後神戸に於ける金貸業乾新兵衛氏に迎へられ女婚となり將來乾家幾千萬の産を相続すべき幸運を贏る身の上となつたが乾家に人となつて以來、明治四十三年には虎大盡山本唯三郎氏等と協同して支那貿易事業を開始し支那、天津に於て活躍するところあつた。明治四十五年六十五銀行に關係して其の神戸支店長となり、又大正元年には神戸取引所理事に選任せられて

其の任にあること十年、後明治信託株式會社を設立して取締役に就任したが曩に信託業法の實施せらるゝに當つて明治實業株式會社と變更して現に其の職にある外、乾鐵線

株式會社の監査役にも就任して居る。

【家庭】夫人榮子氏(五〇)は新兵衛氏の息女、長男繁夫君(一七)長女壽榮子さん(二三)あり。

長女壽榮子さん(二三)あり。趣味——としては書畫骨董、謠典等

西本健次郎氏

【本宅】和歌山市小野町三丁目
【東京住所】東京市赤坂區檜町三
【出生】慶應二年八月

裸一貫から身を起して克く全國屈指の土木請負業者と呼ばれ今亦多額納税議員として貴族院の議席に列するに至つた西本健次郎氏は現代紀州を代表する成功者の一人たるを失はぬ。氏は明治十八年初めて和歌山市の土木建築請負業「用助方」に身を寄

せたのは二十歳の時である。

用助方配下に於ける數多き土方の裡にあつて氏の行ひは自ら他の者と異なるところがあつた、金さへあれば酒と女と賭博に耽溺する多くの土方達の裡にあつて氏一人は之れ等の道樂に目も觸れず給金の大部分は貯金として腹掛けの底には何時も新しい十圓札の二三枚は忍ばせて、如何なる誘惑にもビクともしない度胸を持ち乍ら仲間の者が一朝病に呻吟するのを見ると醫藥の料を支拂つてやる情けを持つて居た。而のみならず其の昔尾張大藩の譜請奉行の由緒ある家の次男として育てられた丈あつて讀み書、算盤が達者であつた氏は「土方としては珍らしい男、西本の家を繼がすには彼をおいて外にない」と、用助氏夫妻から惚れ込まれるに至つたのである。斯くして氏は西本家に入婚して茲に其の業を繼ぐこと、なつたのである。氏は家業を繼承して第一次の請負事業、和歌山織布會社の建築工事に西本組の根底を動搖せしめる程の失敗をした爲めに配下を連れて九州に至り門司の間組に落着いて鐵道工事の下請負をやることになつたのである、爾來誠實と熱心を守本尊として刻苦精勵事業に奮闘すること幾年、信望を聚めること日に厚く氏の爲め無制

限に事業資金を據出するものさへ生ずるに至り、また、く内に西本組は擡頭した。

後間もなく本店を和歌山市小野町に置き東京大阪を初めとして全國樞要の地方に支店若しくは出張所を構へ鐵道省の工事請負をはじめとして鐵道、水電、其の他の大工事を請負ふて全国的に活躍し今や我國土木事業界有數の請負業者として名を知られるに至つた。

氏は又大正十四年貴族院公選議員の改選に當り多額納税者として立候補し榮望を負ふて和歌山縣選出の貴族院議員の椅子を占めて居る現代稀れに見る立志傳中の人である。

【家庭】せき子夫人は養父故要助氏の息女、長女すみの子次女せい子長男健三君外四男一女あり、みすのさんは商學士竹吉氏を婚養子に迎へて分家し、せいさんは海軍少佐千田修二氏を夫君として居る。

△竹吉氏 は現に西本組本店支配人として事業の樞機に携はり其の傍ら和歌山市會副議長として市政に盡瘁しつゝあり、手腕家として囑望せられて居る、又

△千田修二氏 は西本組朝鮮支店長として京城に在り滿鮮地方

に於ける西本組事業を管掌して居る。

△健三君 は明治大學出身者現に和歌山の本店に在つて義兄付吉君を助けて共に父君の事業に従事して居る。

片山卓三氏

【現住所】大阪市天王寺區上汐町二丁目
【出身地】東牟婁郡新宮町
【出生】明治十七年一月生

氏は明治三十一年初めて上阪し陸軍砲兵工科學校に學びて砲兵工廠に入り三十七年日露戰役には滿洲に出征、戰後滿洲守備軍に屬して遼陽に駐屯し歸還後福知山工兵第十大隊工長として勤務し後四十四年輻重兵第四大隊工長、大正九年鳥取歩兵第四十聯隊工長同十一年大阪陸軍兵器支應附、同十二年廣島陸軍兵器支應附となつて西米利亞に出征十三年十二月大阪陸軍兵器支應附十四年五月輻重兵第四大隊附等を歴任して大正十四年退官其の間勳功に依つて正七位勳六等に叙せられた大正十四年大阪紀念博覽會の開催された時同會委員として豐公館の設備を引受けて完成した。

【家庭】夫人コイノ氏(四〇)養子八三郎君(九)あり。

山田 幹氏

【現住所】 西ノ宮市安井町

【出生地】 和歌山市廣瀬中ノ丁二

【出生】 明治廿一年十二月生

氏は明治三十九年の和申出身、神戸高等商業學校を卒業後株式會社三十四銀行に入り本店、臺灣支店等に勤務の後大正十年西の宮支店長に進み後雜喉場支店長に轉じ現に船場支店長の職にあり。

【家庭】には母堂のぶ子氏(六四)夫人ふじ子さん(三一)長男貞吉君(一一)外に一男二女あり。

杉本 徳次郎氏

【現住所】 大阪市港區泉尾濱通二丁目

【出身地】 東牟婁郡新宮町

【出生】 明治十九年六月生

氏は幼少から郷里にて木材業に従事し大正十年大阪に出で後製材所を開いて板の販賣を營業として現在に至る。

【家庭】は夫人小松氏(四二)長男茂君(一七)——大阪商業學校在

學——一男公平君(一五)——市岡商業學校在學——二女さかゑさん(一五)泉尾高女在學、三女節子さん(七)等あり又長女房江(二二)さんは同業大谷嘉一郎氏に嫁した。

湯川 喜七氏

【現住所】 大阪市西區江之子島東ノ丁二四

【出身地】 西牟婁郡瀬戸鉛山村

【出生】 明治二十六年一月生

氏は西牟婁郡瀬戸鉛山村の出身、小學校卒業後十五歳にして大阪に出で簿記學校、英語學校等に入りて修學の後辯護士たらんことを志望し、大正四年關西大學に入學し又、東京に上つて明治大學に法律を修めて大正六年卒業し、十年一月辯護士試験に合格して大阪地方裁判所屬辯護士として登録を受け辯護士富田豊松事務所にて法律事務に従事し、大正十五年四月現住地に獨立事務所を開設するに至つた氏は前途春秋に富む青年辯護の一人である。

【家庭】夫人秀子(二八)さんとの仲に長女瑞子(二二)さんがある。趣味は政治、選舉毎に演壇に立つて雄辯を揮つてゐるが何れは自ら抱負を述べる時期もあるであらう。

附 録

大阪、京都、神戸
在住紀州人

名 録



縣下に本社を有する唯一の水力電気會社

資本金 五百萬圓、創立 明治四十年

本社 和歌山縣海草郡日方町 電話日方三三六番

南海水力電気株式會社

水力發電 三千三百五十キロ
 火力發電 六千キロワット
 電燈供給 五萬五千燈
 電力供給 四千五百キロ



大阪在住者

- 住吉區平野新町二丁目(現住所) 井 上 日 吉氏
- 大日本紡績株式會社用度課長 兼 平野懺糸株式會社取締役
- 大阪府豐能郡箕面村櫻井(現住所) 板 原 兵 三 郎氏
- 兼名會社商業興信所理事 兼 神戸支所主任
- 和歌山縣海草郡和佐村(出身地) 岩 橋 靜氏
- 大阪府地方警視 島之内警察署長
- 天王寺區小宮町四〇(現住所) 天 王 寺 區 小 宮 町 四 〇 (現 住 所) 弘 氏
- 寶文館社員 石 川 弘 氏
- 海草郡西和佐村栗栖(出身地) 住吉區天王寺町明治通府官舎(現住所) 岩 橋 繁 雄氏
- 大阪府立天王寺中學校長
- 海草郡黑江町(出身地) 東區本町三丁目(現住所) 伊 藤 岩 次 郎氏
- 洋反物問屋
- 田中汽船鑛業株式會社社員 岩 橋 保 次 郎氏
- 和歌山市久保町一丁目(出身地) 北區金屋町一丁目一四(現住所)
- 西牟婁郡田邊町上屋敷(出身地) 西成區粉濱町五五三(現住所)
- 那賀郡小倉村上三毛(出身地) 港區市岡元町五丁目八(現住所)
- 西牟婁郡稻荷村(出身地) 南區内安堂寺町三丁目(現住所)
- 西牟婁郡粉濱町(出身地) 日高郡南部町(出身地) 北區堂島濱通二丁目七〇(現住所)
- 大阪府北區堂島濱通一丁目(事務所) 浦山セルロイト株式會社取締役 株式會社堂島ビルヂング監査役 林 龍 太 郎氏
- 西牟婁郡田邊町福路町(出身地) 堺市外船松村一六七(現住所) 橋 本 隆 太氏
- 勞働教育社

藤本醫療器部
東區道修町一丁目八(現住所)
東區高野口町大野(出身地)
和歌山 市(出身地)
東區安土町四丁目五二(現住所)
戸村 竹次郎氏

橋本 淳氏
日高郡南部町(出身地)
北區芝田町一〇一(現住所)
和歌山 市新堀南ノ丁(出身地)
武庫郡御影町郡家(現住所)
邊見 嘉一郎氏

伊都郡九度山町(出身地)
東區久太郎町二丁目(現住所)
西 川 清氏
西牟婁郡田邊町(出身地)
住吉區天王寺町二六四(現住所)
德堂 耕太郎氏

東牟婁郡(出身地)
東區高麗橋詰町(現住所)
西 篤次郎氏
有田郡湯淺町(出身地)
西區北堀江板榮橋北詰(現住所)
棚野 藤太郎氏

西本公之助氏
那賀郡安樂川村(出身地)
西區京町堀上通二丁目(現住所)
大日本肥料會社員
有田郡廣村(出身地)
天王寺區國分町二二(現住所)
堂 三四郎氏

西牟婁郡三柄村(出身地)
東區內安堂寺町二丁目三八(現住所)
辰馬海上火災保險會社員
那賀郡山崎村吉田(出身地)
浪速區難波元町五丁目(現住所)
土岐 美夫氏

那賀郡麻生津村(出身地)
西ノ宮市松原町三四(現住所)
大阪府立天王寺中學校教諭
和歌山 市(出身地)
府下中河內郡布施町東足代西(現住所)
富藤 雄氏

那賀郡龍門村杉原(出身地)
兵庫縣武庫郡六甲村八幡(現住所)
蓬台耕四郎氏
海草郡貴志村(出身地)
西區南堀江下通二丁目(現住所)
小川 純市氏

西牟婁郡朝來村(出身地)
浪速區西濱南通三丁目(現住所)
沼田 嘉一郎氏
西牟婁郡田邊町(出身地)
此花區川岸町六(現住所)
和田 龍七氏

有田郡島屋城村金屋(出身地)
西區土佐堀通三丁目(現住所)
小澤 又一郎氏
西牟婁郡田邊町(出身地)
東區南久寶寺町二丁目(現住所)
川島 慶次郎氏

和歌山 市(出身地)
港區鶴町三丁目一三六(現住所)
岡本 尙一氏
西牟婁郡田邊町(出身地)
西區北堀江上通三丁目(現住所)
川口 皓石氏

那賀郡長田村別所(出身地)
住吉區南田邊町二六一(現住所)
奧實之助氏
和歌山 市(出身地)
南區諏訪町(現住所)
金井 金市氏

伊都郡高野口町(出身地)
北區真砂町三五(現住所)
奧田 福敏氏
那賀郡田中村(出身地)
東成區今市町九五五(現住所)
神崎 包吉氏

那賀郡粉河町(出身地)
港區市岡町六五五ノ三(現住所)
生地 龜三郎氏
和歌山 市(出身地)
天王寺區烏ヶ辻町五一(現住所)
川北 惟孝氏

市村法律事務所內

桃谷順天館店員

東成區書記
有田郡湯淺町(出身者)
東成區鶴橋木野町一六二(現住所)
梶本 繁松氏 辯護士
日高郡比井崎村方杭(出身地)
東區清水谷西之町三二九(現住所)
田島 義夫氏

株式會社杉村倉庫社員
有田郡湯淺町(出身地)
中河內郡八尾町庄ノ内七(現住所)
梶谷 秀太郎氏
西牟婁郡東富田村(出身地)
住吉區千休町一六(現住所)
竹中 友次郎氏

運動具商
海草郡大崎村(出身地)
西區京町堀通二丁目(現住所)
梶本 德太郎氏
株式會社鴻池運送
大阪支店勤務
有田郡田中町(現住所)
豐能郡池田町(現住所)
武内 基次氏

木材商
日高郡御坊町(出身地)
西區西長堀南通一丁目(現住所)
川本 國藏氏
齒科醫師
那賀郡上神野村(出身地)
住吉區帝塚山學院通(現住所)
田中 勇三氏

大阪礦業館主
日高郡上南部村(出身地)
東區上本町一丁目二八(現住所)
吉本 干城氏
印刷業
那賀郡上岩出村(出身地)
港區市岡市場通一丁目七(現住所)
谷澤 定八氏

帽子材料製造業
海草郡黑江町(出身地)
東淀川區北長柄町(現住所)
吉川 竹三郎氏
計理士
和歌山市三木町南ノ丁(出身地)
東區八丁目中寺町(現住所)
橘道太郎氏

辯護士
西牟婁郡江住町(出身地)
西宮市香櫨園池ノ端(現住所)
田島 淳太郎氏
竹村商店勤務
和歌山市港通町北四丁目(出身地)
東區南本町一丁目(現住所)
高塚 三代太郎氏

紙箱製造業
日高郡阿波座下通二丁目(現住所)
爲井 道二氏
綿布商
西牟婁郡周參見町(出身地)
東區唐物町一丁目(現住所)
田所 信一氏

醫師
浪速區南阪町(現住所)
那賀郡東野上町(出身地)
谷本 道氏
絹綿布卸商
日高郡南部町(出身地)
北區會根崎中二丁目(現住所)
田中 幸助氏

綿布商
海草郡雜賀村(出身地)
東區橫堀五丁目(現住所)
玉置 龍太郎氏
綿糸及有價証券仲立業
日高郡南部町(出身地)
西區幸町通四丁目
谷利 仲藏氏

メリヤス商
伊都郡橋本町(出身地)
東區南本町四丁目(現住所)
高松 福三郎氏
木材商
西牟婁郡和深村(出身地)
西區幸町通四丁目
高尾 嘉雄氏

吳服商
那賀郡小倉村(出身地)
南區千年町一七(現住所)
玉置 嘉一氏
天滿織物株式會社支配人
西牟婁郡東富田村(出身地)
天王寺區勝山通三丁目六(現住所)
竹中 倉之助氏

伊都郡戀野村(出身地)
港區八雲町四丁目二(現住所)
田中 富士雄氏
紙器製作業
西牟婁郡田邊町(出身地)
天王寺區東高津南ノ丁(現住所)
竹中 熊太郎氏

伊都郡笠田町(出身地)
北區浪花町三一(現住所)
田村 省三氏
洋紙商
有田郡湯淺町(出身地)
西區江戶堀北通丁目(現住所)
田中 德次郎氏

大阪毎日新聞記者
田村 省三氏
洋紙商
有田郡湯淺町(出身地)
西區江戶堀北通丁目(現住所)
田中 德次郎氏

和歌山市(出身地) 伊都郡妙寺町(出身地) 豐能郡豐中町(出身地) 中谷 茂氏
東區北渡邊町四四(現住所) 豐能郡豐中町上ノ町(現住所)
曾根 德次郎氏 檢事(大阪區裁判所)

吳服 卸商 那賀郡小倉村(出身地) 伊都郡高野村湯川(出身地) 中林 長藏氏
南區南綿屋町三二(現住所) 天王寺區六万徳町二丁目(現住所)
辻本 房之助氏 建築設計業

吳服 商 西牟婁郡岩田村(出身地) 和歌山市丸之内五番丁(出身地) 中川 正三氏
西區阿波座下通一丁目 大平生命保險會社 住吉區天王寺町二四九(現住所)
貝 卸商 中島 源七氏 大阪支店勤務

中央タクシー會社員 西牟婁郡日置町(出身地) 和歌山市雜賀屋町東ノ丁(出身地) 村井 義賢氏
天王寺區勝山通一丁目(現住所) 天王寺區烏ヶ辻町二二(現住所)
中央電機會社取締役 中本 日吉氏 大阪市電運輸部勤務

電機 大阪市北區會根崎上一丁目(現住所) 日高郡南部町(出身地) 東區東雲町二丁目一七四(現住所) 宇戶 憲男氏
中央電氣會社取締役 中戸 安次郎氏 洋服商
兵庫縣武庫郡御影町岩屋(現住所) 和歌山市新留町三八(出身地) 南區安堂寺橋通一丁目(現住所) 浦田 金三氏

東工業株式會社常務取締役 中谷 熊之助氏 金物卸商
株式會社大洋軒取締役 西成區南吉田町(現住所) 西ノ宮市安井町(現住所) 日高郡日比崎村(出身地) 上西 清次郎氏
長尾 智正氏 內外綿株式會社西宮工場長

空箱 商 有田郡烏屋城村(出身地) 和歌山市雜賀(出身地) 西成區粉濱町六三五(現住所) 楠見 庄三郎氏
西淀川區大仁新道(現住所) 西成區粉濱町六三五(現住所)
日高郡山野村(出身地) 西牟婁郡田邊町(出身地) 西區新町通三丁目五三(現住所) 栗山 彦七氏
南區橫堀七丁目(現住所) 西牟婁郡上若養村(出身地) 南區鹽町通四丁目五〇(現住所) 栗山 善兵衛氏

大正製材株式會社取締役 上山 文次郎氏 昆布商
和歌山市(出身地) 東區南渡邊町四二(現住所) 栗山 善兵衛氏
東區南渡邊町四二(現住所) 西牟婁郡東富田村(出身地) 天王寺區烏ヶ辻町(現住所) 栗山 寬一氏
堺市出島町四三二(現住所) 西牟婁郡東富田村(出身地) 天王寺區烏ヶ辻町(現住所) 栗山 寬一氏

肩掛 卸商 野々田 爲吉氏 大江ビルヂング社長
大阪市西成區長 野々田 爲吉氏 武庫郡住吉村反亭林(現住所)
川北電氣會社勤務 野々田 三祐氏 日本綿花株式會社取締役 楠本 吉次郎氏
東區安土町四丁目(現住所) 有田郡湯淺町(出身地) 此花區上福島地一丁目(現住所) 久保 不二太郎氏

洋反物 卸商 野呂 克藏氏 久保婦人科醫院
西牟婁郡田邊町(出身地) 伊都郡大谷村(出身地) 南區笠屋町三二(現住所) 山本 福太郎氏
府下濱寺町下石津(現住所) 西牟婁郡田邊町(出身地) 南區笠屋町三二(現住所)

土木技術者 楠本 武藏氏 亞細亞商會大阪支店勤務
西牟婁郡田邊町(出身地) 府下濱寺町下石津(現住所) 南區笠屋町三二(現住所)

山本 福太郎氏

七

泉北郡濱寺町船尾(現住所)

西牟婁郡上芳養村(出身地)
東成區中道町三四七(現住所)

醫學博士

藪添宗雄氏 醫師

山羽有信氏

日高郡南部町(出身地)
東區久寶寺町三丁目(現住所)

西宮市安井町(現住所)

印刷業

山本源之助氏

三十四銀行雜喉場支店長

山田幹氏

和歌山市(出身地)
西成區玉出本通一丁目(現住所)

伊都郡學文路村(出身地)
天王寺區上本町七丁目(現住所)

日本ノ一ト學用品會社取締役

山本顯氏

株式業

松永定一氏

東牟婁郡田原村(出身地)
南區南炭屋町四六(現住所)

和歌山市東鍛冶屋町(出身地)
西成區玉出本通二丁目三九(現住所)

建築業

藪本久三郎氏

洋服商

矢野常吉氏

那賀郡東野上村(出身地)
東區南久太郎町二丁目(現住所)

東成區南島町一八五(現住所)

建築業

山本信太郎氏

大阪電報通信社員

前西兵輔氏

海草郡日方町(出身地)
東區小橋東ノ町(現住所)

那賀郡小倉村(出身地)
港區八幡屋町八一(現住所)

化粧品商

柳廣藏氏

木材信託業

前川和右衛門氏

海草郡日方町(出身地)
府下濱寺町(現住所)

那賀郡粉河町(出身地)
豐能郡岡町表通(現住所)

株式業

柳彌五郎氏

住友電線製造所社員

増田瀨氏

東牟婁郡下里町(出身地)
西區川口町二(現住所)

和歌山市(出身地)
西成區西今船町一〇八一(現住所)

建築材料商

松本標四郎氏

エンバイヤーランドリー

前田悖郎氏

武庫郡本庄村青木(現住所)

和歌山市茶屋ノ丁(出身地)

福太商會主

前田太郎兵衛氏

株式會社富島組本店員

増田潔男氏

西牟婁郡田邊町(出身地)
東區橫堀五丁目(現住所)

伊都郡橋本町(出身地)
西淀川區佃町一九一(現住所)

洋傘肩掛卸商

正木楠藏氏

大阪ヤトナ會

松山信吉氏

西牟婁郡日置町(出身地)
港區夕風町三丁目(現住所)

伊都郡高野口町大野(出身地)
東區北久太郎町二丁目(現住所)

臺灣產青果神阪荷受組合書記

前田一三氏

難波神社神職

武津八千穂氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

和歌山市西ノ店(出身地)
北區堂島船大工町(現住所)

株式會社杉村倉庫本店員

松村憲治氏

織物商

福永良造氏

那賀郡安樂川村(出身地)
住吉區住吉町三三八(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

松下丈夫氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

伊都郡見好村島(出身地)
住吉區天王寺町一五三四(現住所)

海草郡日方町(出身地)
天王寺區上本町十丁目(現住所)

大阪地方專賣局勤務

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

藤本清兵衛氏

日高郡南部町(出身地)
豐能郡箕面村橋立(現住所)

有田郡八幡村(出身地)
東區橫堀二丁目(現住所)

大阪府巡查(島ノ内署勤務) 藤川利平氏 小兒科醫師

小林信義氏

西牟婁郡三柄村(出身地)
東區内淡路町一丁目(現住所)

浪速區木津敷津町三丁目(現住所)

紙器商 藤島範七氏 電器機具商

小林源治氏

那賀郡河原村(出身地)

堺市瓦町(現住所)

大阪朝日新聞記者 藤田進一郎氏 株式會社島商店取締役

小島省三氏

西牟婁郡結川村(出身地)
西區幸町通二丁目(現住所)

和歌山市萬町(出身地)
住吉區阿倍野町南坂田(現住所)

木材商 藤田健吉氏 日本電力株式會社員

前島詳三氏

和歌山市小人町南之町(出身地)
住吉區住吉町松山六五六(現住所)

那賀郡東野上村(出身地)
東區北濱三丁目一六(現住所)

三十四銀行員 後藤武氏 大阪株式取引所取引員

江川藤楠氏

和歌山市植松町(出身地)
住吉區天王寺町二二二(現住所)

和歌山市久保町三丁目(出身地)
港區三軒家市場通一丁目六〇(現住所)

日本電力株式會社員 小村捨楠氏 家屋管理業

榎本保次郎氏

和歌山市東長町中ノ丁(出身地)
此花區上福島一丁目四〇三(現住所)

有田郡烏屋城村小川(出身地)

メリヤス製造業 權田清氏 大阪堂島米穀取引所員

江馬銳三郎氏

那賀郡小倉村下三毛(出身地)
住吉區天王寺町二二三〇(現住所)

那賀郡麻生津村(出身地)
西區新町通四丁目(現住所)

大阪電氣分銅株式會社員 出口正男氏 對米貿易商

東英二氏

伊都郡九度山町(出身地)
住吉區阿倍野町六〇(現住所)

西牟婁郡日置村(出身地)
豐能郡池田町室町九番丁(現住所)

住友生命保險岸和田駐在員 出水芳夫氏 大倉商事大阪支店次長

青井清一郎氏

西牟婁郡田邊町(出身地)
東區木野町二三(現住所)

有田郡湯淺町(出身地)

雜貨商 出口幸七氏 神戸海上運送火災保險大阪支店員

秋田正雄氏

西牟婁郡田邊町(出身地)
天王寺區石ヶ辻町(現住所)

大阪市港區泉尾上通二丁目(現住所)

大阪市芦池尋常小學校長 朝山守氏 東洋紡績三軒家工場長

山東友三郎氏

那賀郡岩出町(出身地)
天王寺區北日東町五二(現住所)

和歌山市雜賀屋町(出身地)
南區長堀橋筋二丁目(現住所)

質商 熱田昇三氏 株券公債金融業

山東顯義氏

那賀郡岩出町清水(出身地)
天王寺區筆ヶ崎町一七(現住所)

和歌山市元金屋町(出身地)
西區新町通二丁目(現住所)

會社員 芦田正雄氏 各國蓄音器商

山東靖雄氏

和歌山市廣瀬中ノ丁(出身地)
東成區今市町九一六(現住所)

伊都郡橋本町(出身地)
浪速區敷津町二丁目(現住所)

青木昇氏 石炭商 澤野爲之助氏

西牟婁郡田邊町(出身地) 堺市大濱公園四二(現住所) 坂野雄三氏 眼科醫師 伊都郡紀見村(出身地) 南區長堀橋筋二丁目(現住所) 北村純一郎氏

亞鉛精練業 西牟婁郡田邊町(出身地) 西區幸町通二丁目五八(現住所) 澤村義之助氏 大阪府警察部建築課員 海草郡貴志村向(出身地) 住吉區村上町(現住所) 貴志重雄氏

建築工務所 東牟婁郡宇久井村高津氣(出身地) 北區東野田七丁目二四(現住所) 阪口鶴二氏 時計商 日高郡名田村上野(出身地) 東成區鴨野町六九二(現住所) 木村重藏氏

雜誌「紀州人」社 和歌山縣海草郡(出身地) 堺市翁橋町一〇八六(現住所) 阪本恭雄氏 內外物産合名會社代表者 大阪商工會議所議員 西牟婁郡田邊町(出身地) 東區高麗橋詰町(現住所) 湯川忠三郎氏

米穀商 那賀郡粉河町(出身地) 府下濱寺町諏訪ノ森(現住所) 北野每太郎氏 辯護士 海草郡龜川村(出身地) 南區日本橋筋五丁目(現住所) 湯川昇氏

木材商 那賀郡下神野村(出身地) 西淀川區大和田町一五三九(現住所) 喜多野常太郎氏 住友本店經理部社員 和歌山市(出身地) 西區南堀江五丁目(現住所) 南方熊次郎氏

大阪製菓時報社主 海草郡大野村(出身地) 天王寺區蓬阪下ノ町(現住所) 木下庄太郎氏 大阪市會議員

各國樂器商 和歌山市久保町四丁目(出身地) 浪速區惠美須町二丁目(現住所) 宮脇吉太郎氏 內海紡績尾崎分工場建築課 下阪重福氏

平野屋合資會社員 西牟婁郡市ノ瀬村(出身地) 住吉區北畠住宅五十二號(現住所) 三栖敏氏 醫師 和歌山市(出身地) 西區北堀江御池通五丁目(現住所) 島崎義明氏

木綿問屋 西牟婁郡南富田村(出身地) 南區北久太郎町三丁目(現住所) 光安恒助氏 大阪府立生野高等女學校教諭 實寶達次郎氏

松村組社員 西牟婁郡周參見町(出身地) 住吉區天王寺町九四〇(現住所) 南三郎氏 合資會社日本鋼構製作所代表社員 住吉區天王寺町天王寺(現住所) 茂野三善氏

紙箱製造業 有田郡湯淺町(出身地) 西區阿波堀通三丁目(現住所) 宮井佐兵衛氏 株式會社杉村倉庫本店員 和歌山市丸之内(出身地) 東成區林寺町五三(現住所) 平塚昇太郎氏

醫師 有田郡烏屋城村小川(出身地) 西區北堀江通三丁目 三田常一氏 刀劍及物商 和歌山市(出身地) 南區心齋橋南詰(現住所) 平池豐氏

字佐見商店員 那賀郡粉河町(出身地) 住吉區阿倍野町一〇九(現住所) 清水惠氏 製菓業洋風堂 西牟婁郡中芳養村(出身地) 天王寺區上本町七丁目(現住所) 平尾初吉氏

西牟婁郡三柄村(出身地) 東區清堀町三丁目(現住所) 西牟婁郡潮岬村(出身地) 西區西長堀北通二丁目(現住所) 鈴木眞一郎氏

丸釘鐵線商 平本武八氏 辯護士 伊都郡山田村山田(出身地) 武庫郡本庄村青木(現住所) 鈴木源作氏

中央タクシー會社 廣本嘉平次氏 シーホルスクイン商會店員 和歌山市小人町(出身地) 住吉區上住吉町二〇〇(現住所) 砂山盛三氏

化粧品卸商 平山峰雄氏 株式賣買 有田郡保田村星尾(出身地) 大阪市南區東清水町四二(現住所) 松本平次氏

大阪土地商會社長 門奈貞治氏 山彦除虫菊株式會社 專務取締役 有田郡湯淺町(出身地) 港區二條通四丁目三五(現住所) 吉原久太郎氏

堺警察署警部 森田政隆氏 火災保險代理業 有田郡御靈村德田(出身地) 東淀川區十三南之町七三(現住所) 小池惣七氏

株式會社精工舎取締役 森本武之助氏 大同病院勤務 有田郡湯淺町(出身地) 東區內淡路町二丁目九(現住所) 中爲吉氏

大阪市堀江小學校長 和歌山市(出身地) 南河內郡高鷲村惠我ノ庄(現住所) 管沼松彦氏 藥種商

花緒商 有田郡湯淺町(出身地) 西區靱中通二丁目(現住所) 東區岡之町四〇(現住所) 上野伊兵衛氏

醬油商 有田郡廣村(出身地) 西區北堀江御池通二丁目(現住所) 辯護士 梅田義憲氏

大阪工業試驗所員 北區北同心町二丁目(現住所) 礦油商 西區西幸町通二丁目(現住所) 大西寬一氏

吉見紡織會社員 泉南郡吉見ノ里社宅(現住所) 藤永田造船所員 西區新炭屋町(現住所) 岡部遂氏

大阪高等工業學校助教授 東區玉造四三〇(現住所) 井關忠雄氏 東區本町二丁目(現住所) 加藤潤一氏

大阪毛織株式會社員 住吉區住吉町二〇二(現住所) 磯望氏 礦石商 西區市岡町五五八(現住所) 神谷忠一氏

浪速區船出町(現住所) 浪速區船出町(現住所) 望氏 礦石商 三島郡茨木町南清水町(現住所) 龜井富之助氏

日本皮革株式會社員 岩上藤吉氏 日本火災保險會社員 東淀川區神津村(現住所) 河原亮三郎氏

泉南郡土生郷村土生(現住所) 岩崎勝之介氏 內外電熱器會社員

西成區玉出町六七〇(現住所)

三十四銀行員

楠山正夫氏 發明家 寺島昇氏

西成區川北村外島(現住所)

醫師

黑田信夫氏 大阪師範學校教諭 中津尹一氏

東區高麗橋三丁目

三井物產會社員

小島留三郎氏 醫師 西村隆行氏

府下濱寺町船尾(現住所)

三井物產會社員

阪田賞穂氏 三等郵便局長 服部本一氏

天王寺區勝山町二丁目四(現住所)

畫家

島田悅山氏 住友銀行員 濱宗義氏

住吉區天王寺町東中道(現住所)

大分セメント會社專務

田上爲次郎氏 住吉區天王寺町三五九(現住所) 林良一氏

中河內郡布施町菱屋(現住所)

宇治川電氣會社員

高尾平五郎氏 豐中中學校教諭 東精一郎氏

北區安治川通南二丁目(現住所)

船具商

玉木勘七氏 電氣暖房商 松本龜三郎氏

西區本田通二丁目六六(現住所)

豐能郡池田町甲ヶ谷(現住所)

西成區玉出町九〇九(現住所)

浪速區惠美須町二丁目(現住所)

東區北濱五丁目(現住所)

住吉區天王寺町三五九(現住所)

豐能郡池田町二九七(現住所)

西區江戸堀南通一丁目(現住所)

東區南久寶寺町五丁目(現住所)

大阪市港區小林町北通一丁目一六

大阪市港區泉尾北村町二丁目九四

大阪市港區小林町百八拾五番地

大阪市西區立賣堀南通二丁目

大阪市浪速區難波稻荷町二丁目九四六

電働裝置シャフト製作業

無線電話業

大阪府境川町壹丁目

港區三軒家上ノ町三二(現住所)

醫師

三尾德之助氏 麻苧商 吉村友吉氏

住吉區帝塚山(現住所)

鐘淵紡績會社員

溝端元太郎氏 製材業 瀨戶喜一郎氏

西成區梅南通二丁目二二(現住所)

村松卯助氏 製材業 貴志勝三氏

西淀川區大仁町(會社)

森永製菓出張所員

森脇圭一郎氏 製材業 廣里常之助氏

東成區友淵町二一五

大日本製糖會社技師

山本熊太郎氏 板問屋 山口祥三氏

西區九條南通三丁目(現住所)

山本幸次郎氏 製材業 山本幸太郎氏

西成區千船町佃一九〇(現住所)

辰見商會專務取締役

山本壯氏 無線電話業 片岡碓堂氏

西區立賣堀北通三丁目(會社)

塚本商事株式會社專務

山本常太郎氏 製材業 中原喜之助氏

神戸在住者

海草郡貴志村榮谷(出身地) 神戸市脇ノ濱町三丁目(現住所) 大本 藤 市氏

海草郡椒村(出身地) 神戸市兵庫戸場町三九(現住所) 小川 茂 兵衛氏

海草郡和歌浦町(出身地) 神戸市元町四丁目一四六(現住所) 素麵米穀商 和 泉 一枝氏

海草郡和歌浦町(出身地) 神戸市元町四丁目一四六(現住所) 會社員 奧 才 五 郎氏

和歌山市北新五丁目(出身地) 和歌山市相生町二丁目(現住所) 伊都郡笠田町移(出身地) 神戸市多聞通五丁目(現住所) 和田 安 三 郎氏

和歌山市相生町二丁目(現住所) 和歌山市北新五丁目(出身地) 和歌山市古港通二丁目(現住所) 海草郡日方町(出身地) 神戸市磯邊通四丁目(現住所) 和 田 安 三 郎氏

和歌山縣日高郡(出身地) 和歌山縣日高郡(出身地) 海草郡日方町(出身地) 神戸市磯邊通四丁目(現住所) 田 島 長 三 郎氏

和歌山市金龍寺町(出身地) 明石郡垂水村鹽屋(現住所) 日高郡比井崎村比井(出身地) 神戸市加納町一丁目(現住所) 武 田 米 太 郎氏

和歌山市金龍寺町(出身地) 明石郡垂水村鹽屋(現住所) 日高郡比井崎村比井(出身地) 神戸市加納町一丁目(現住所) 武 田 米 太 郎氏

日高郡比井崎村產湯(出身地) 神戸市平野矢部町一〇(現住所) 西牟婁郡西富田村堅田(出身地) 神戸市兵庫東出町三丁目(現住所) 西牟婁郡西富田村堅田(出身地) 神戸市兵庫東出町三丁目(現住所) 實 氏

日高郡比井崎村產湯(出身地) 神戸市平野矢部町一〇(現住所) 西牟婁郡西富田村堅田(出身地) 神戸市兵庫東出町三丁目(現住所) 西牟婁郡西富田村堅田(出身地) 神戸市兵庫東出町三丁目(現住所) 實 氏

近海郵船會社神戸出張所 土 岐 悅 藏氏 薪炭、砥石商 玉 置 信 吉氏

菱中商事株式會社取締役 和歌山市南材木町二丁目(出身地) 神戸市相生町二丁目(店舖) 和歌山市東長町九丁目(出身地) 神戸市須磨大手(現住所) 谷 井 保 氏

西牟婁郡田邊町(出身地) 神戸市下山手通六丁目(現住所) 海草郡加茂村(出身地) 神戸市兵庫南仲町二〇(現住所) 柳 田 太 七 氏

和歌山市港北町一丁目(出身地) 神戸市兵庫切戸町一三三(現住所) 和歌山市本町四丁目(出身地) 武庫郡住吉村反高林(現住所) 山 本 博 一 氏

和歌山市港北町一丁目(出身地) 神戸市兵庫切戸町一三三(現住所) 和歌山市本町四丁目(出身地) 武庫郡住吉村反高林(現住所) 山 本 博 一 氏

有田郡宮原村南(出身地) 神戸市相生町四丁目(現住所) 那賀郡中野上村木津(出身地) 神戸市下山手通六丁目(現住所) 松 島 朗 氏

和歌山市中ノ店北ノ町(出身地) 神戸市中山手通四丁目(現住所) 海草郡岡町村鹽道(出身地) 神戸市橋通四丁目八二(現住所) 松 尾 清 之 助 氏

和歌山市中ノ店北ノ町(出身地) 神戸市中山手通四丁目(現住所) 海草郡岡町村鹽道(出身地) 神戸市橋通四丁目八二(現住所) 松 尾 清 之 助 氏

海草郡紀伊村弘西(出身地) 神戸市兵庫西仲町八(現住所) 那賀郡川原村西川原(出身地) 武庫郡魚崎町横夫(現住所) 藤 田 俊 夫 氏

海草郡紀伊村弘西(出身地) 神戸市兵庫西仲町八(現住所) 那賀郡川原村西川原(出身地) 武庫郡魚崎町横夫(現住所) 藤 田 俊 夫 氏

和歌山市吹上東徒町(出身地) 神戸市中山手通七丁目(現住所) 海草郡宮前村北出島(出身地) 神戸市坂口通一丁目七(現住所) 小 島 朝 一 氏

和歌山市吹上東徒町(出身地) 神戸市中山手通七丁目(現住所) 海草郡宮前村北出島(出身地) 神戸市坂口通一丁目七(現住所) 小 島 朝 一 氏

千代田信託株式會社取締役 久 喜 豐 彦 氏 合資會社川崎輸出入部 代 表 員 小 島 朝 一 氏

千代田信託株式會社取締役 久 喜 豐 彦 氏 合資會社川崎輸出入部 代 表 員 小 島 朝 一 氏

伊都郡笠田町佐野(出身地) 和歌山市秋月(出身地)
 神戸市平野港山町九九(現住所) 神戸市平野港山町一三九(現住所)
 共済生命保險會社 小島 松之助氏 加古川銀行神戸支店長
 神戸支店支店長 和歌山市雜賀町二(出身地) 和歌山市九番町一(出身地)
 和歌山市兵庫港町二丁目(現住所) 神戸市中山手通四丁目(現住所)
 綿 布 商 小山 利介氏 外國爲替仲立業 鹽路 周三郎氏
 西牟婁郡下秋津村(出身地) 有田郡湯淺町(出身地)
 神戸市島上町二四(現住所) 神戸市三ノ宮町六八(現住所)
 雜 穀 商 淺井 友市氏 料理業 廣岡 昌一氏
 和歌山市今福六五(出身地) 大阪府住吉區阿倍野町六三(現住所)
 大阪府住吉區阿倍野町六三(現住所) 阪 口 覺氏 海草郡貴志村榮谷(出身地)
 合資會社川崎總本店員 阪 口 覺氏 神戸市都野町三〇〇(現住所)
 東牟婁郡大島(出身地) 武庫郡御影町掛田一八一(現住所) 神戸市中山手通七丁目(現住所)
 武庫郡御影町掛田一八一(現住所) 北 濱 留松氏 古 鐵 商 龜井 英之助氏
 株式會社鈴木商店支配人 有田郡湯淺町(出身地) 神戸市外西灘村岩屋松本
 有田郡湯淺町(出身地) 神戸市貴合町二〇三〇(現住所) 神戶市西王町二二(現住所)
 貿易 商 湯淺竹之助氏 阪神競馬俱樂部 島 本 格 十郎氏
 和歌山市吉田(出身地) 武庫郡六甲村八幡(現住所) 神戶市山王町二二(現住所)
 武庫郡六甲村八幡(現住所) 宮 本 季 四郎氏 桃山報德會幹事 角 谷 源 之 助氏
 銀行 員 宮 本 季 四郎氏 桃山報德會幹事

神戸市大井通附屬地(會社) 上京區衣笠町 伊藤 宗 敬氏
 神戸醋酸會社事務取締役 直江 平 十郎氏 金閣寺住職
 三菱造船所員 神戸市和田岬町三(會社) 上京區土手町丸太町下ル 西 浦 綱 一氏
 中 村 武 夫氏 醫 師 伏見京町三丁目 岡 本 善 一 郎氏
 地金類輸入商 神戸市下山手通八丁目(現住所) 駿 河 屋 岡 本 善 一 郎氏
 森 田 波 三氏 武庫郡精道村打出三(現住所) 上京區鹿ヶ谷宮前町四八ノ二 岡 本 道 固氏
 武庫郡精道村打出三(現住所) 谷 口 和 良氏 文 學 士 岡 本 道 固氏
 アイボライト製造技師 武庫郡六甲村篠原四一二(現住所) 下京區東洞院蛸藥師 岡 本 勇 五氏
 大阪商船會社海技員 城 保 夫氏 銀 行 員 岡 本 勇 五氏
 神戸市吉田新田中坪一七六(現住所) 神戸市吉田新田中坪一七六(現住所) 美術細工業 岡 黃 泉氏
 醫 師 三 島 幾 太 郎氏 美術細工業 岡 黃 泉氏
 下京區烏丸四條南入ル 大 亦 重 義氏
 石崎株式會社員 岡 崎 愛 之 助氏
 下京區松原通千本西入ル
 京都 在 住 者
 上京區一條通堀川東入ル 岡 崎 愛 之 助氏
 會 社 員 岩 橋 大 六氏 鐵 工 業 岡 崎 愛 之 助氏

上京區塔之段荒神町
木 材 商 亙 利 平氏 菓子 商 根 來 可 澄氏

下京區綾小路大宮西入ル
大宮病院醫師 川 口 遜氏 陸軍主計監 中 村 宗 則氏

上京區夷川柳馬場西入ル
豆 菓 子 商 角 田 政 次 郎氏 上加茂神社神職 京都市外上鴨村 成 瀨 安 麿氏

京都府下山科町
鐘淵紡績會社工場員 神 田 秀 穂氏 俳 優 中 村 鶴 三氏

上京區東福ノ川丁二八
物産陳列所員 金 田 糸 之 助氏 塵芥燒却場吏員 上京區一條通森本町 中 筋 農 夫 也 氏

上京區寺町廣小路上ル
梨木神社宮司 川 西 光 之 助氏 畫 家 上京區鹿ヶ谷寺ノ内 野 長 瀨 晚 花 氏

上京區鞍馬口烏丸東入ル
醫 師 伊 達 多 仲氏 炭 問 屋 上京區間ノ町二條上ル 久 保 榮 次 郎 氏

上京區麩屋町押小路上ル
辯 護 士 玉 置 由 次 郎 氏 陸軍歩兵少佐 京都市外伏見深草瓦町 山 本 義 彦 氏

上京區万里小路一條南入ル
醫 師 前 田 朝 二 氏 修學院教師 京都市外修學院村 貴 志 亥 三 郎 氏

伊都郡大谷村字柏木(出身地)
雜 貨 商 松 本 健 吉氏 絹布整理業 下京區六角堀川東入ル 弓 倉 儀 三 郎 氏

上京區三條通室町西入ル
幸 野 信 一 郎 氏 メリヤス業 上京區堺町丸太町下ル 三 尾 恒 三 氏

上京區西ノ京伯樂町
上京區高倉二條上ル
小 林 山 郷氏 捺 染 業 上京區下鴨宮崎町 島 本 包 次 郎 氏

上京區廣小路通寺町東入ル
小 松 徹 三 郎 氏 海 軍 中 佐 上京區北野白梅町 森 不 龜 楠 氏

京都市東中筋魚ノ棚
秋 山 德 藏氏 醫 師 須 藤 光 彦 氏

下京區六角柳馬場東入ル
公 証 人 木 村 安 麿氏 日本勸業銀行支店員 下京區東洞院六角下ル(銀行) 上 山 英 夫 氏

上京區一條通千本東入ル
京 都 第 二 中 學 校 教 諭 北 西 鶴 太 郎 氏 醫 師 今 井 信 雄 氏

和歌山縣海草郡加太町(出身地)
上京區麩屋町姉ヶ小路上ル(現住所)
桑 邱 茂 氏

昭和三年十一月十日印刷
昭和三年十一月二十日發行

定價金貳拾圓

不許復製
全紀州人
縣外活躍史

編輯兼發行者 竹内良雄

印刷者 林孝一

印刷所 林正文行

和歌山市東長町三丁目二十番地

和歌山市雜賀屋町東ノ丁三番地

和歌山市小松原通一丁目五番地

發兌 和歌山市東長町三丁目二十番地 紀州協會編纂部

正

誤

誤

正

一頁	上段	五行目	我國輸出	輸出	四九頁	下段	十七行目	賣局副參事	賣局副參事
三頁	上段	四行目	明治十三年	明治四十年	五一頁	下段	四行目	殊式仲買店	殊式仲買店
三頁	上段	十一行目	除虫菊	除虫粉	五三頁	上段	十二行目	始して	催して
一〇頁	下段	四行目	ローマ論者	ローマ字論者	同	上段	十四行目	あつた。	あつて
同	同	十四行目	大塚性明	大塚性明	五四頁	上段	七行目	慶を受けて	惠を受けて
同	同	十四行目	長女太郎	長男太郎	五六頁	下段	四行目	活動した	活動したが
一五頁	下段	十四行目	三輪町	三輪崎町	六九頁	下段	四行目	醫師會理事	醫師會幹事
一六頁	上段	十行目	涙を飲んで	涙を飲んで	七〇頁	上段	十三行目	大阪證券團	大阪證券團
一九頁	下段	一行目	開聯して	開聯して	七二頁	上段	五行目	肩書を貰つた	肩書を貰つた
二〇頁	上段	十一行目	關係は	關係は	同	下段	十二行目	管沼辯護在	管沼辯護士
同	下段	二行目	本店の理事	本店總理事	同	下段	十五行目	記すが程の	記する程の
二三頁	上段	十七行目	野田浦彌を	野田浦彌氏を	七四頁	下段	二行目	大阪市住吉區	大阪市住吉區
同	下段	十二行目	花園分院	花園分室	同	上段	三行目	海草郡九度山町	伊都郡九度山町
二六頁	下段	三行目	毎夜十二時	毎夜十二時	七六頁	上段	十五行目	診發を開始	診發を開始
二七頁	上段	二行目	京都市上區	京都市上區	七八頁	上段	九行目	一旗舉げて	一旗舉げて
同	下段	十行目	植林中業	植林事業	七九頁	下段	十一行目	趣味は園藝	趣味は園藝
三一頁	下段	十四行目	明治三十一年	明治三十一年	同	同	同	「合邦」	「合邦」
同	上段	十五行目	際して時に伯父に	際して伯父に	八〇頁	下段	四行目	商業通信所	商業通信社
三八頁	上段	十行目	商賣拂り	商賣振り	同	同	同	匿名組名	匿名組合



年百二第創

茶任酒造合資会社

第一三番物請寄町校洲紀
番九二

八二頁 下段 七行目 東京北中學
 同 十二行目 引續いて
 八五頁 下段 十七行目 船渠
 九三頁 下段 十三行目 西區東田通り
 九八頁 下段 十六行目 〇に市岡
 一〇二頁 上段 五行目 海運業
 一〇二頁 下段 二行目 京都府上京區
 一〇二頁 上段 六行目 引續いて
 同 十二行目 取扱を取扱つて
 一〇六頁 下段 一行目 設計出願
 一〇一頁 下段 八行目 趣味一茶居に
 一一一頁 上段 一行目 外砲兵工廠
 一二二頁 下段 十七行目 茶道瑞穂派
 一二四頁 上段 六行目 和歌出師範
 同 三行目 つな子さん
 一二七頁 上段 七行目 一ヶ月生産高
 一二八頁 上段 三行目 【出身地】
 同 十五行目 勤續八年
 一二三頁 上段 十六行目 同社を辭して
 一二三頁 上段 十三行目 (里字哉)
 一二四頁 下段 八行目 専科に學び
 一二八頁 上段 三行目 栽培場を

正
 京北中學 引續いて
 船渠 西區東田通り
 現に市岡 海運業
 京都府上京區 引續いて
 取扱を取扱つて
 設計出願 趣味一茶居に
 大阪砲兵工廠 茶道瑞穂派
 和歌出師範 つな子さん
 一ヶ月生産高 【出身地】
 勤續八年 同社を辭して
 (里字哉) 専科に學び
 栽培場を

二九頁 上段 七行目 高池村
 三〇頁 上段 五行目 後來臨
 三四頁 下段 七行目 夫人宇多子
 三三頁 下段 六行目 字淺淺
 三七八頁 下段 十一行目 大正十五年
 一四三頁 下段 十一行目 日高紡績
 一四九頁 下段 十一行目 資本金五十萬圓
 一五〇頁 上段 十七行目 宇佐中學校
 一五四頁 上段 一行目 人、の間
 一五五頁 上段 十行目 氏は其て
 一五八頁 下段 三行目 【家庭】
 一六〇頁 下段 一行目 岡米商店經營
 一六一頁 上段 十六行目 新通五丁目
 同 十行目 部を專問
 一六四頁 下段 八行目 小松原町
 一七四頁 上段 十五行目 其の實出を
 一七五頁 上段 二行目 四十七聯隊

正
 高池町 御來臨
 夫人宇多子 湯淺
 大正十年 日高紡績
 資本金四百五十萬圓 宇佐中學校
 人、の間 氏は其の
 【家庭】 岡米商店の經營
 新通五丁目 科を專問
 小松原町 其の實出を
 三十七聯隊

糸

和歌山紡織株式會社

電話三三三六四六番
三三三六四六番五二〇四番

本社工場 和歌山市傳法橋南詰
中之島工場 和歌山市外中之島村
平手工場 和歌山市外平手
紀川工場 和歌山市宇治三筋目
箕島工場 有田郡箕島町

上

山彥除蟲菊株式會社

本社 和歌山縣有田郡山原電氣島三番六
支店 大阪南區東清水町電氣島七一三番



別岡卸刷所

和歌山市南區木町一丁目十五番代
電話二六四四番 振替大八三九一



任 責 限 有

合 組 用 信 山 歌 和

番八六〇一話電 目丁三通新市山歌和 店 本
番二六二二話電 目丁七通原松小市同 部 支



社 會 資 合

所 業 工 材 製 安 上

濱 町 行 奉 町 元 市 山 歌 和
番 七 五 七 話 電



社 會 式 株 工 染 山 歌 和

(番四二四話電) 町橋石市山歌和 場工社本
(番〇三七話電) 島北外市山歌和 場工分



社 會 式 株 布 綿 山 歌 和

郎 六 嘉 島 福 長 社
丁 之 中 敷 屋 畑 市 山 歌 和
番 八 〇 五 番 七 〇 五 番 三 四 一 話 電



和歌山製材所

和歌山外小雜賀
電話三五二番



友居製材所

合資社會

帶鋸部

和歌山外中之島錢座
電話八三三番

國產練羊羹

駿河屋本店



大日本除虫粉株式会社

終

